



情報通

2015. September 9月号

発行：東京税理士会 情報システム委員会
 題字：神津 信一 (四谷)
 (税理士会員章の日輪と八重桜をイメージしています。)

税理士情報フォーラム2015の開催について ~今年のテーマは「マイナンバーと情報セキュリティ」~

<税理士情報フォーラム2015 開催概要>

■日 時：10月13日 (火) 午前10時~午後5時 (午前9時30分受付開始) ■会 場：東京税理士会館 2階大会議室及び地階会議室
 ■テーマ：マイナンバーと情報セキュリティ ■予 約：不要 (研修履歴カードをお持ち下さい)

情報システム委員会では今年も、税理士の業務及び会員事務所のIT活用推進の支援を目的として、「税理士情報フォーラム」を上記要領で開催します。

今年は、10月5日より国民へのマイナンバーの付番が始まるのに合わせて、「マイナンバーと情報セキュリティ」をテーマに、下記のようなイベントを企画しておりますので、ぜひご参加下さい。

税理士情報フォーラム2015イベントスケジュール		
時 間	2階大会議室 (メイン会場)	地階会議室 (サブ会場)
10:20~11:50	【基調講演】 『情報漏洩に関する最新状況と対策~もしもこんな事態になってしまったら~ (仮)』 講師：情報処理推進機構 (IPA) 及び警察サイバー対策チーム	
13:00~14:00	【ミニセミナー①】 『税理士業務における情報セキュリティ対策の具体的対応 (仮称)』 講師：情報システム委員会委員	(12:00~16:00)
14:10~15:10	【ミニセミナー②】 ※ミニセミナー①と同じ内容です。	会計ソフトベンダー各社による マイナンバー関連ソリューションに関する プレゼンテーション・サービス紹介
15:20~16:50	マイナンバー制度に関するQ & A <解説編>	

※予定は変更となる場合がありますのでご了承下さい。

▼マイナンバー制度の運用に関する情報セキュリティ についての質問を募集します

今年の税理士情報フォーラムでは、マイナンバー制度の運用に伴い重要となってくる情報セキュリティについて、会員の皆様の疑問・質問を事前に募集し、フォーラム内で時間を設け、皆様から寄せられた疑問・質問への回答・解説を行うイベントを予定しています。

つきましては、これからの事務所運営に関する情報セキュリティについて何かご質問がある方は、右のフォームにご記入いただき、9月18日 (金) までにFAX又は電子メールでお送り下さい。電子メールの場合には、①氏名、②税理士登録番号、③質問内容をご記入の上、johosystem@tokyozeirishikai.jpまでお送り下さい。

回答・解説は税理士情報フォーラム2015にて行いますので、ぜひお越しください。

東京税理士会業務課 (担当：岡田) 行

FAX: 03 (3356) 4469

税理士情報フォーラム2015

〈マイナンバー制度の運用に関する情報セキュリティについての質問〉

氏名

登録番号

質問内容

台湾での電子インボイスの状況と日本での導入可能性について

情報システム委員会 情報技術小委員会委員 磯部 和郎

はじめに

いま、与党が消費税の軽減税率と併せて検討しているのが、インボイス方式です。導入されれば、企業の事務負担が増すといわれているインボイスですが、海外では当たり前で運用されています。

果たして負担は増すだけなのでしょうか。先日、これを一足先に体験する機会があったので、ここに報告したいと思います。

台湾の電子インボイスとは

2015年6月、台湾台北市。本会情報システム委員会が実施した調査研究旅行でのことです。

とあるファストフード店で飲み物を注文し、レシートを受け取りました。標題には「電子發票」とあります。案内役の楊昌達記帳士 (税理士) によると、レシートが消費税インボイスを兼ねており、印刷されているものと同じ情報が、POSレジから電子の形で国税当局に送信されているのだそうです。

また、レシートの隅には、QRコードが印刷されていました。これをスマホのカメラで撮ると、スマホのアプリが起動し、紙に印刷されたのと同じ情報がディスプレイに表示されました。

これが電子インボイスのデータなのかというと、違います。台湾の電子インボイスは、ただのテキストデータではありません。

調べてみたところ、「電子發票資料交換標準訊息建置指引 (Message Implementation Guideline) Ver: 3.1.2」という仕様書が見つかりました。データ形式は、XML (eXtensible Markup Language)。なんのことはない、日本のe-Taxと同じデータ形式が、採用されているのでした。

XMLは、機械可読なデータ形式といわれています。さきほどのスマホの読取

りでは、人間が読めるように文字データで情報が表示されました。しかし、XMLでは、機械がデータの意味を読み取れるように、「タグ」という形で電子的な注釈が埋め込まれています。

日本型電子インボイスの技術的可能性

昨今、レシート等をスマホで撮影して送信すると、仕訳に変換して返してくれるサービスが流行りのようです。freeeやkeiri.inなどがそれにあたります。一過性の流行で終わるかと思っていたら、雨後の筍のように、類似のサービスが立ち上げられています。ここには、事業者の根強い需要があるものと思われます。

流行りの仕訳起こしサービスは、「自動仕訳」を売り物にしているものもあります。その実は、人力によって仕訳の入力代行が行なわれている例が多いようです。一方、前記のXMLでは、機械がインボイスの各項目を、意味的に判別できる仕組みになっています。XML形式で記述されたインボイスデータは、処理ソフトに必要な仕掛けをしておけば、「機械による自動仕訳」が可能となります。

そのようなことが可能になるのであれば、インボイス方式は必ずしも事務負担の増加にはならず、むしろ、画期的な事務負担軽減策、経理の合理化策になると期待できるのではないのでしょうか。例えば、一般社団法人XBRL Japanでは、そのような電子インボイスを試作中であり、仕訳への自動展開にも成功しているようです。

私見ですが、インボイス方式の導入は、ITの活用により災いを福に転じられるのかもしれない。今後の動向に注目したいところです。

